



上流・下流の水づくり。

琵琶湖・淀川水系を水源とする流域のなかでも、琵琶湖に隣接する大津市と最も下流域にあたる大阪市の「おいしい水づくり」への取り組みをレポートしました。

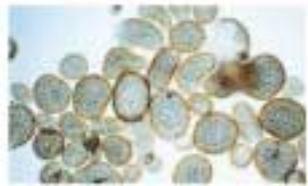
おいしさを自然にもとめた
生物接触ろ過法

【大津市企業局】

大津市では平成5年より、水道水の異臭味を引き起こしたり、春から秋



にかけてかび臭の原因となるバクテリアの臭気物質などを取り除くために



ウログレナ アメリカカーナ
淡水赤潮の原因生物種。生
くさ臭を発生して水道に臭臭
味障害を引き起こします。



オシロトリア テネリス
かび臭の原因生物種。夏
秋季に出現増殖し、強い臭
気を発生して長期化します。

にかけてかび臭の原因となるバクテリアの臭気物質などを取り除くために生物処理を導入しています。この処理方法は生物接触ろ過法とよばれ、自然の浄化作用を装置のなかで人工的に効率よく再現し、微生物がもっている分解機能にろ過機能を加えたものです。河川の川底の小石などについた微生物が汚濁物質を取り込み、分解する作用と同じように、原水中の臭気物質や藻類、アンモニア性窒素、その他の濁質分などをより安全に効果的に処理することができます。

オゾンと粒状活性炭による
高度浄水処理

【大阪市水道局】

淀川の最下流域にあたる大阪市ではこの春より市の全域で高度浄水処理水が供給されることになりました。これには、従来の処理方法に加え、かび臭の原因となる有機物質などを分解除去し、水の消毒にも役立つオゾンによる処理と、小さな孔に有機物質やトリハロメタンの原因となる物質などを吸着する粒状活性炭による処理方法を導入。かび臭を完全に取り除き、微生物に対する安全性を強化するとともに、浄水過程で生成されるトリハロメタンを基準値の10分の1以下としました。